

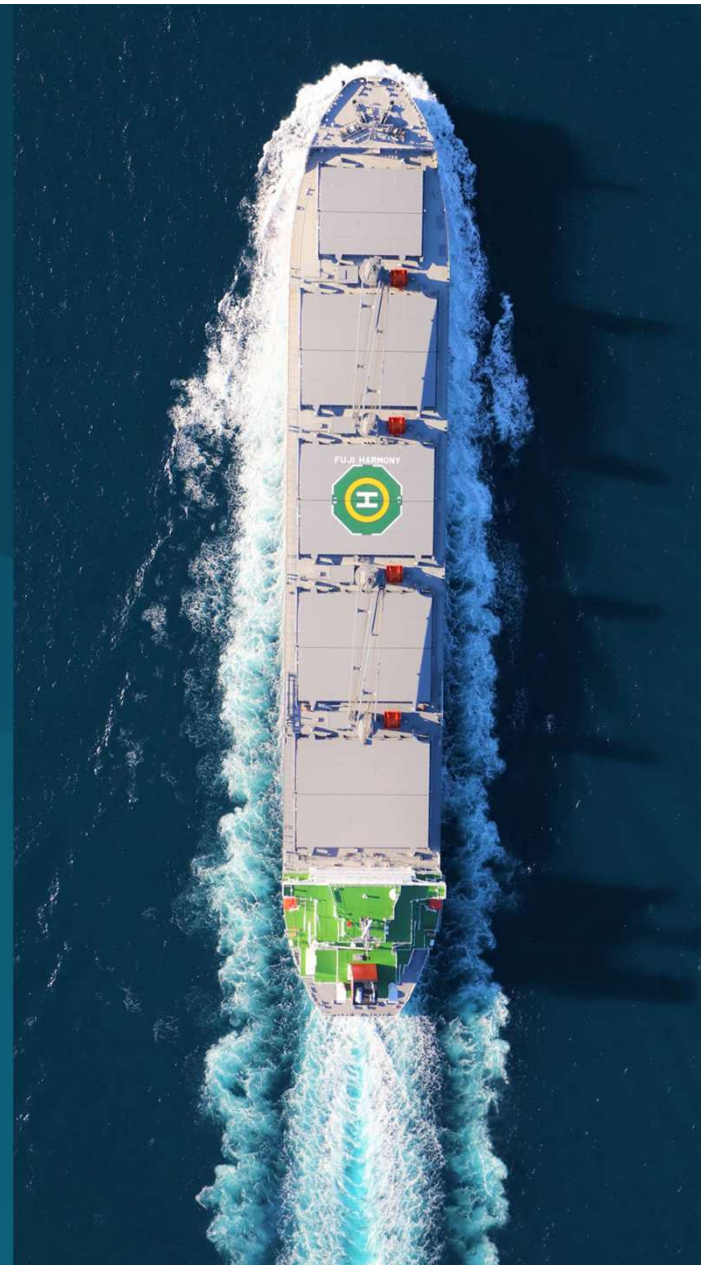
株式会社 同和ライン

DOWA LINE CO., LTD.

# SUSTAINABILITY REPORT

## 2026

海図無き航海を、未来へと進む



## 01 SDGs × DOWA LINE

# SDGs×同和ライン（理念・行動憲章）

### 同和ラインの掲げる基本理念

- 持続可能な未来の実現が企業の発展の基礎であることを認識し、広く社会に新たな価値を創造します。
- 事業を通じて社会に必要なサービスを提供するとともに、持続可能な経済成長と社会的課題の解決を図ります。
- 海図無き海をわたる勇気を常に持ち、志を同じくする人々と相和して、事業を舵取りします。

### SDGs行動憲章

✓ 海運事業では船舶の安全運航を徹底し地球・海洋環境の保全に取り組む

✓ 安全・環境に関する法律・規制等の遵守に加え、SDGsの自主目標を定期的に設定・運用

✓ 企業活動に脅威を与える反社会的勢力やテロ、サイバー攻撃等に備え危機管理を徹底

✓ 省エネ、省資源、廃棄物削減、リサイクルに主体的に取り組む

✓ 環境に優れた製品・技術・サービスを用い環境負荷を最小化

✓ 不動産事業では耐震・省エネ・再エネ・バリアフリー等で環境と人に優しい街づくり

✓ 社員一人一人の能力を高め、多様性・人格・個性を尊重し安全に配慮した職場環境整備

✓ 社内教育・社内広報で社員一人一人がSDGsに取り組む意識を高め行動に移す

## 02 CEO MESSAGE

# 代表メッセージ



代表取締役社長

龍川 和雄

2025年度を振り返ると、長期化するウクライナ情勢に加え、2026年1月の米軍によるベネズエラでのニコラス・マドゥロ大統領拘束、同2月の米・イスラエルによるハメネイ最高指導者暗殺を伴うイランへの大規模攻撃など、国際秩序を揺るがす事態が相次ぎました。こうした地政学上の緊張は、エネルギーや資源、金融市場のみならず、サプライチェーン、人権、地域社会の安定といった広い範囲へ影響を及ぼしています。

海運業界では、米国通商代表部（USTR）が2025年1月、中国の海事・物流・造船分野での支配的な政策・慣行が米国通商を不当に害するとして通商法第301条上の問題を認定し、4月には中国船社や中国建造船舶などを対象とする段階的な対抗措置を公表したことによる対応に迫られました。年後半には一部内容の修正や1年間の停止も打ち出されましたが、通商政策の変動そのものが、企業にとって新たな経営リスクとなる時代となったと言えるでしょう。

このような世界情勢の中、企業には変化に対応するしなやかさと、社会からの信頼に応える誠実さの双方がこれまで以上に求められています。当社は、「環境」・「安全」・「人」のマテリアリティから成るサステナビリティ戦略を経営の中核に据え、持続可能な社会の実現と企業価値の向上を両立させるべく、責任ある経営を着実に推進して参ります。

2023年に「環境ソリューション事業」を立ち上げて以来、カリブ海の環境問題に取り組んで参りました。その活動が徐々に認知され、2025年度は大阪・関西万博でのアンティグア・バーブーダのナショナルデー、バルバドス大使館・国土交通省共催ビジネスミッション団へのご招待をいただきました。カリブ諸国と日本の優れた技術を持つ企業との橋渡し役を務めることを通じ、私たちの企業としての社会的責任を果たして参ります。

不確実性が常態化する時代だからこそ、短期的な成果だけでなく、中長期的な視点に立った価値創造が重要であると認識しています。2024年度に策定した長期経営戦略「DOWA2044」を羅針盤とし、「海図無き航海」の精神で持続可能な成長を実現し、ステークホルダーの皆様のご期待に応えて参ります。

## 03 ABOUT US / OUR FLEET

# 私たちについて

私たちは、昭和32年に内航オペレーターとして創業以来、台湾・東南アジア向け近海外航を経て、ニューヨークを営業拠点とし、カリブ海・中南米地域を主力とする外航船オペレーターへと事業を発展させてきました。

現在は7,700DWT型バルクキャリア12隻および16,000DWT型バルクキャリア6隻を主に中南米・カリブ海地域において運航するほか、38,000～40,000DWT型バルクキャリア17隻を世界各海域に配船し、計35隻の船隊を運航しています。長年にわたり安定した船腹供給体制を維持し、継続的かつ安定的な貨物輸送サービスを提供しています。

当社が取り扱う主要貨物は、穀物、肥料、塩、砂糖、鋼材、非鉄金属、各種鉱石など多岐にわたり、大手穀物メジャー、総合商社、資源関連企業、ならびに国内外の主要海運会社との間で、長年にわたり安定した取引関係を構築しています。世界有数の穀物メジャーを含む中南米・カリブ地域の顧客との間で、多数のCOA（数量輸送契約）を締結しており、中には40年以上継続して取引いただいている荷主も多く存在します。当社は地域物流を支える輸送パートナーとして事業を展開し、長期的な信頼関係を基盤とした事業運営を行っています。

海運事業に加え、不動産事業およびマリンサプライ＆エンジニアリング事業を展開しています。不動産事業では、自社ビル「DLXビル」をはじめとする不動産の運営・管理を行っています。マリンサプライ＆エンジニアリング事業では、船用品販売、安全属具の点検、バラスト水処理装置のアフターサービス、船舶機器の修繕などを行っています。



## 私たちの船について

### 【環境に配慮した運航】

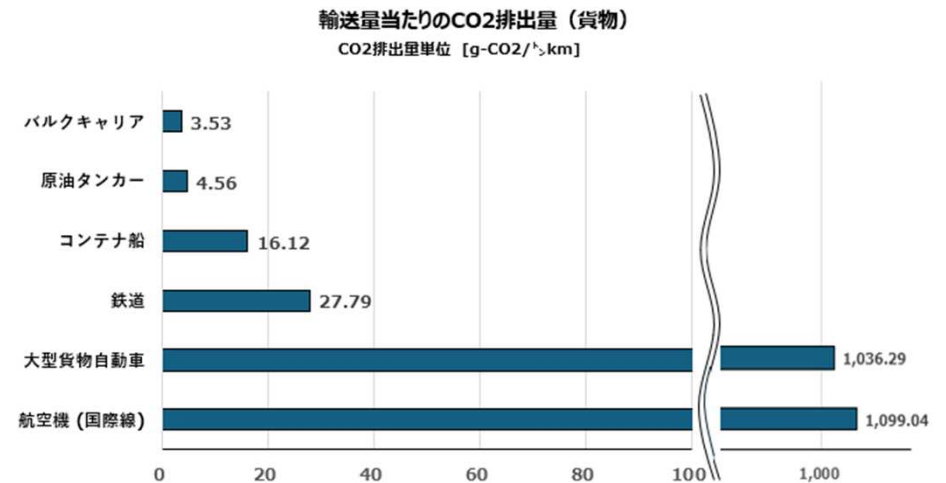
船舶による輸送は、他の輸送手段と比較して温室効果ガスの排出が少なく、環境負荷の低い輸送方法として評価されています。当社が運航するバルクキャリアは、他船種と比較しても、輸送量あたりのCO2排出量が低いという特徴があります。この強みを活かし、当社では減速運航の推進や、気象・海象に配慮した運航計画の策定により、さらなる環境負荷低減に努めています。

### 【環境、安全対応の実施】

船舶の環境負荷低減に向けた取り組みは、国際社会において重要性が高まっています。当社では、各種環境規制へ適切に対応するとともに、安全運航体制の強化にも継続的に取り組んでいます。

その一環として、当社では全運航船がRightShip(※)に加入しており、安全運航水準の維持・向上を図っております。こうした取り組みは、当社船隊の競争力向上および顧客からの信頼獲得にも寄与しています。

※RightShipは、船舶の安全性や環境対応状況を評価する第三者プラットフォームであり、その評価は用船者や荷主による船舶選定の指標の一つとして活用されています。



### 環境配慮運航

バルクキャリアは輸送量当たりCO2排出量が最少  
減速運航・最適航路選定を実施

### NOx規制対応（SCR搭載）

NOx TierIII適合船を7隻導入済

### バラスト水管理条約

バラスト水管理条約施行前より積極的に処理装置を装備

## 05 KEY FIGURES

# SDGs主要数値

\*年度末時点の数値 (括弧内は前年度数値)

**35** (36) 隻  
運航船隻数

**854,404** (870,637) トン  
総DWT数

**0** (0) 件  
重大事故発生件数

**95.4** (95.7) %  
廃棄物リサイクル率

**4** (4) 件  
育児休業取得

**9.9** (8.5) 年  
平均船齢

**1,479,756** (1,697,565) 海里  
航海距離

**280,526** (302,446) トン  
CO2排出量

**100** (100) %  
再エネ利用率

**70.3** (74.1) %  
有給休暇取得率

## 06 GOAL SELECTION & MONITORING

# 目標選定プロセス・活動モニタリング

### STEP.1

#### 社会課題の抽出

- ▶ 同和ライン全部門の代表者から構成されるSDGsチームが社会課題を整理
- ▶ SDGsのガイドラインに則って重要な社会課題のリストを作成

### STEP.2

#### 重点課題の特定

- ▶ Britannia P&I CLUB等、外部有識者の意見に基づき数値的目標を設定
- ▶ 海運会社として最重要である「環境」「安全」「人」の3カテゴリに特定

### STEP.3

#### 活動目標の選定

- ▶ SDGsの17のゴールとSTEP2で特定した重要課題との整合性を確認
- ▶ 「環境」「安全」「人」の3つのマテリアリティとして選定し取締役会にて承認

## 07 MATERIALITY: ENVIRONMENT

# マテリアリティ「環境」

## 地球環境と共存する事業運営

1. 重大事故の防止 — 海外拠点と連携し24時間体制の運航管理を実現

2. 環境規制への対応 — 国際条約・法規制の遵守

3. GHG排出削減 — 減速運転、低硫黄燃料使用、船底清掃の実施

4. 環境マネジメント強化 — 環境保護機器の重点保守

5. 非危険物中心の貨物輸送 — 海洋・人体への影響に配慮

6. 発展途上国への貨物輸送 — 食糧事情等の安定に寄与

7. 廃棄物リサイクル — 高リサイクル率を維持

8. 所有不動産の環境保全 — 再生可能エネルギー100%

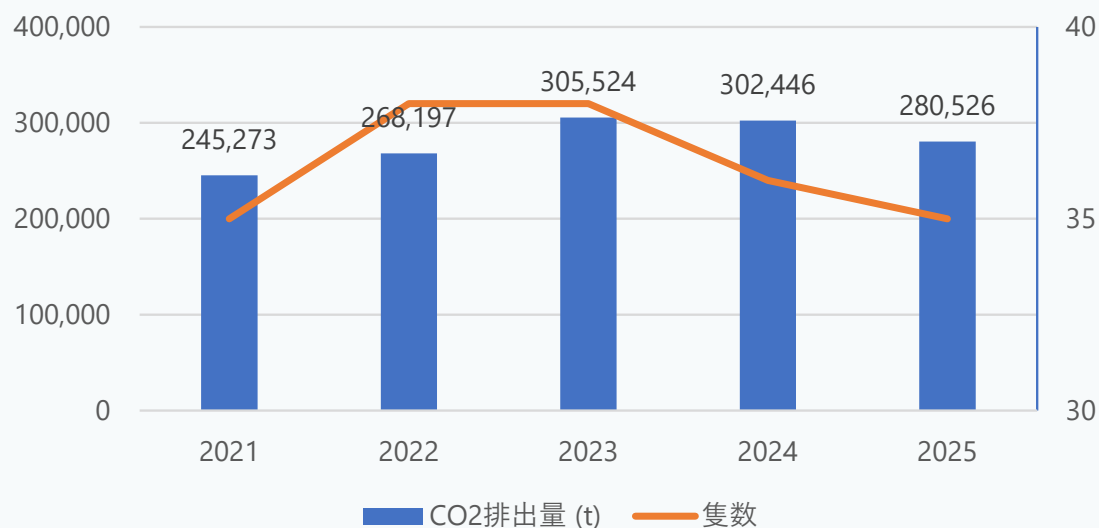
9. サステナビリティレポートの作成・公表

10. 従業員に対するSDGsの普及・推進

## 08 ENVIRONMENTAL DATA

# 海運事業における取り組み

CO2排出量推移



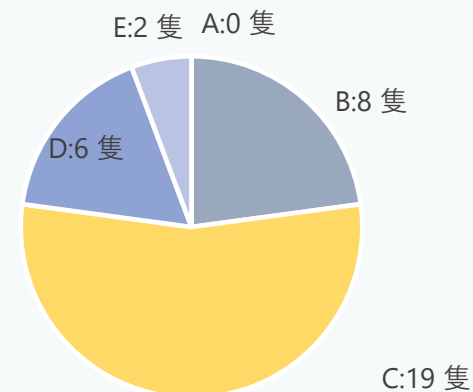
### 【各環境規制への対応】

SOx/NOx国際排出規制対応済。EEXI・CII格付け制度が施行。EU-ETS対応として燃料消費量・航路計画の最適化を推進。

航海距離当たりCO2: 0.1896t/Nm (2025年) ← 0.17816 t/Nm (2024年)

出所: IMODCS (Data Collection System)

2025年CII格付け (全35隻)



2025年度は全35隻中77%がA-C評価を獲得。D-E評価の8隻についても、是正計画の策定等により評価改善に努めています。

## 09 REAL ESTATE

# 不動産事業

### 不動産事業における取り組み



#### 【環境に配慮した不動産運営】

私たちは本社ビルとDLXビルの合計2棟のオフィスビルを所有しています。本社ビルでは廃棄物リサイクル率の測定を行っており、2025年度は95.4%という結果になりました。DLXビルは、階段室を利用したヒートchimニーによる自然換気システムを導入している他、構造体が日除けとしての機能を有するため、室内への熱の侵入を防ぎ、省エネを実現しております。また、両ビルとも2021年から使用電力を100%再生可能エネルギーに切り替えており、CO2排出量ゼロを達成しています。

#### 【地域環境に配慮した建物づくり】

DLXビルは地域社会に配慮して建築され、港区「景観街づくり賞」を受賞しています。防災倉庫と共用発電機を備えることで、自然災害等の有事の際に入居者や近隣の住民・勤務者の支援拠点となる機能を有しています。

また、世田谷区の「ユニバーサルデザイン推進条例」に適合したアドミラル桜新町や、ZEH(ゼッチ※)仕様として省エネ性能を追求し消費エネルギー量をネットゼロとしたアドミラル三鷹など、賃貸マンションにおいても地域社会に配慮した建物づくりを行っています。

※年間を通して建物で消費されるエネルギーと、太陽光発電などで創り出すエネルギーを差し引き、実質的にエネルギー消費をゼロにする住宅のこと。

## 10 ENVIRONMENTAL BUSINESS

# 環境ソリューション事業

### 環境事業 – カリブ諸国からの招待

2023年に「環境ソリューション事業」を立ち上げて以来、カリブ海の環境問題に取り組んできました。その活動が徐々に認知され、2025年度は大阪・関西万博でのアンティグア・バーブーダのナショナルデー、日本国外務省及び国土交通省とバルバドス大使館共催のビジネスミッション団へのご招待をいただきました。

#### 大阪・関西万博「ナショナルデー」

2025年9月28日、大阪・関西万博2025にて、アンティグア・バーブーダのナショナルデーイベント及び午餐会に招待いただきました。午餐会ではアンティグア・バーブーダで深刻な影響を及ぼしているサルガッサム問題が大きな話題となり、一緒に出席した広島大学中井智司教授と取り組んでいる研究内容を説明させていただきました。



左から伊東内閣府特命担当大臣、グリーン外務大臣、当社伊藤代表取締役専務、広島大学中井教授、プリグリム書記官

## 11 ENVIRONMENTAL BUSINESS

# 環境ソリューション事業

### 【サルガッサム（大型浮遊海藻）対策プロジェクト】

近年、カリブ海を中心に大型浮遊海藻「サルガッサム」の異常繁殖が深刻化しています。アフリカ西岸からメキシコ湾にかけて全長9,000kmに及ぶ巨大な海藻帯が形成され、沿岸国では毎年数千万トン規模の海藻が漂着しています。サルガッサムは、生態系の破壊、観光業への打撃、腐敗に伴う有毒ガスの発生など、環境・経済・公衆衛生へ多面的な被害をもたらしています。当社は、国内の大学・研究機関およびメーカーと連携し、サルガッサムの回収・資源化に関する研究開発を推進しています。



### 【ジャトロファ由来バイオ燃料プロジェクト】

2025年1月に発効したFuelEU Maritime規制をはじめ、海運業界における温室効果ガス削減は喫緊の課題です。当社は、アフリカ・モザンビークにおけるジャトロファ（ナンヨウアブラギリ）由来のバイオ燃料生産プロジェクトに参画しています。ジャトロファは耐乾性が高く、農地に適さない土壌でも栽培が可能な非可食作物であり、食料生産と競合しない持続可能な燃料原料です。抽出したオイルは既存の船用エンジンとの適合性が確認されており、低硫黄燃料油との混合使用による段階的な脱炭素化が期待されています。本プロジェクトは、現地の雇用創出と緑化推進にも寄与するものであり、海運会社としてのサプライチェーン全体での環境貢献を目指しています。



# 環境ソリューション事業

### 【広島大学 – 共同研究】

当社は広島大学の中井智司教授と共同研究を行い、サルガッサムからDHA・EPAを含む微生物（スラウストキトリッド）を生産する技術の確立を目指しています。現在、DHAやEPAは主に魚から生産されていますが、大量捕獲による生態系への影響が懸念されており、代替的な生産手段の開発が求められています。

本研究はこの課題に対し、カリブ地域で大量に漂着するサルガッサムを原料として活用するという新たなアプローチを提案するものです。研究は段階的に進められており、まずサルガッサムからの有機物生産の可否を検証した上で、生産した微生物を家畜飼料に混合し、畜産物の栄養価向上に寄与するかを実証試験により確認する計画です。研究成果は当社と共有され、将来的な社会実装や事業化も視野に入れています。サルガッサムに含まれる重金属の除去は依然として課題ですが、本研究を通じて有用成分の抽出と安全性の両立を目指していきます。

### 【JICA – セントルシア・ベリーズ派遣】

当社はJICA（国際協力機構）が主催する「カリブ地域・サルガッサム利活用に係る現地調査団」に参加し、ベリーズ及びセントルシアを視察しました。本調査団は、カリブ海沿岸諸国で深刻化するサルガッサム問題に対し、日本企業が有する技術やサービスの適用可能性を探ることを目的としたものです。現地では両国の政府機関や自治体関係者との面談を行うとともに、実際にサルガッサムが漂着する沿岸部を視察し、被害の実態や各国の対策状況を確認しました。

両国ともにサルガッサムの回収・処理体制の整備が課題となっており、外部からの技術支援や民間企業との連携に対する期待が高いことを確認しています。当社は引き続き、今回の調査を通じて得た知見や現地関係者とのネットワークを活かし、サルガッサムの利活用を通じたカリブ地域への貢献に向けた取り組みを進めていきます。

## 13 MATERIALITY: SAFETY

# マテリアリティ「安全」

## 船舶の安全運航の取り組み

0 件

重大事故発生件数（2025年）  
2024年に引き続きゼロを達成

1. 重大事故の防止 — 船主・船舶管理会社と連携  
本船との情報共有を綿密に行い重大事故を未然防止
2. IT環境向上 — V-SAT及びSTARLINK導入で安定した船陸間通信を確立  
情報共有システムで安全を維持

### 当社の安全に向けた取り組みの例

- ✓ 運航業務への習熟を図る外部セミナーへの参加
- ✓ 船舶管理会社と合同で行う緊急対応演習
- ✓ 四半期毎の事故・不具合分析の実施
- ✓ 適宜開催される安全管理委員会への参加
- ✓ 各港現地代理店からの事故・事件情報収集
- ✓ ヒューストン事務所工務部による訪船活動
- ✓ 米国事務所との連携による24時間体制での運航管理

## 14 MATERIALITY: PEOPLE

# マテリアリティ「人」

## 社員が活躍できる環境づくり

### 1. 働きやすい環境づくり

男女問わず活躍できる環境を構築

### 2. 子育て支援

育児休暇の奨励および出産祝い金の贈呈

### 3. 社員健康の維持促進

社内での禁煙を実施

### 4. 海外駐在員家族への教育費支給

日本と同様の教育を受けられるよう補助

### 5. 人材育成

海上技術大学校での長期研修、乗船研修、チリ留学、資格取得支援

## 【具体的な取り組み】

### 海上技術大学校への派遣

2年間の派遣中も給与全額を支給  
(これまで4名の派遣実績)

### 資格取得支援制度

7分野・約50の公的資格を対象に最大50万円の報奨金  
(2025年度は2件支給)

### チリ・カトリカ大学スペイン語留学

6か月間の派遣中も給与全額を支給  
(これまで4名の派遣実績)

### 出産祝い金

第一子10万円、第二子以降100万円  
(2025年度は4名に贈呈)

## 2025年度CSRニュース

### 若手演奏家支援コンサート

同和ラインは、芸術文化活動への支援を重要な社会貢献活動の一つと位置づけ、次世代を担う音楽家の挑戦を後押しています。その一環として若手音楽家支援コンサートへの協賛を行っています。若手音楽家支援の第三弾として、2025年6月18日に紀尾井ホールで開催された「若手演奏家支援コンサートシリーズ Vol.3 ヘーデンボルク・トリオコンサート」に協賛しました。

同公演には、ヘーデンボルク・和樹さん、ヘーデンボルク・直樹さん、ヘーデンボルク・洋さんによるヘーデンボルク・トリオが出演し、ブラームス《ピアノ三重奏曲第1番 長調 Op.8》、シューベルト《ピアノ三重奏曲第1番変長調 Op.99, D898》が演奏されました。

### 過去実施実績

Vol.1： 水野優也さん (チェロ)

Vol.2： 工藤和真さん (テノール・リサイタル)

若手演奏家支援コンサートシリーズ Vol.3

# ヘーデンボルク・トリオ

## Hedenborg Trio コンサート



ベルンハルト・直樹・ヘーデンボルク (チェロ)  
エリアン・洋・ヘーデンボルク (ピアノ)  
ウィルフリート・和樹・ヘーデンボルク (ヴァイオリン)

2025  
**6/18(水)**  
19:00開演(18:15開場)  
紀尾井ホール

program  
ブラームス  
ピアノ三重奏曲 第1番 長調 Op.8  
Brahms: Piano Trio No. 1 in B Major, Op.8  
シューベルト  
ピアノ三重奏曲 第1番 変長調 Op. 99, D. 898  
Schubert: Piano Trio No. 1 in B-Flat Major, Op. 99, D. 898

【チケット】S席6,000円 A席5,000円 学生席3,500円(税込) 学生券はKトレーディングのみ扱い  
【チケット発売日】2024年12月2日(月)  
【チケット取り扱い】イープラス <https://eplus.jp/> Kトレーディング(右記、QRコードよりお申込み)  
【主催】Kトレーディング株式会社 【協賛】株式会社同和ライン  
【お問い合わせ】Kトレーディング 03-6418-1008



※未就学児の入場はご遠慮願います。※やむをえない事情により内容に変更が生じる場合がございます。※当日体調の悪い方はご来場をお控え下さい。

## 2025年度CSRニュース

### ヴァイオリニスト HIMARIさんへの活動支援

HIMARIさんは、2011年日本生まれのヴァイオリニストで、「一世代に一人の才能」と称される若き音楽家として紹介されています。3歳よりヴァイオリンを始め、6歳でプロオーケストラと共演。2022年には、米国フィラデルフィアの名門カーティス音楽院に最年少で入学し、現在も世界的な指導者のもとで研鑽を積んでいます。

これまでに、リピンスキ・ヴィエニヤフスキ国際ヴァイオリンコンクール特賞グランプリ、アルトゥール・グリユミオー国際コンクール、ポスタッキーニ国際コンクール、シェルクンチク国際コンクールなど、数々の国際コンクールで最高位を獲得。国内外の主要オーケストラとの共演も重ねてきました。

2025年には、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の定期公演にアジア人最年少ソリストとしてデビュー。さらに、名門レーベルDecca Classicsと独占契約を締結し、国際的な演奏活動と録音活動の両面で大きな飛躍を遂げています。



# 海図無き航海を、未来へと進む

---

株式会社 同和ライン

DOWA LINE CO., LTD.

〒105-0003 東京都港区西新橋2丁目37番5号 同和ラインビル

TEL: 03-3433-7321

<https://www.dowaship.co.jp>